（別紙4（2））

事業所名 グループホームひなたぼっこ

作成日： 平成 29 年 11 月 1日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	27	ケアプランを評価できるような記録にする必要がある。	記録を適切に書き、ケアプランを評価できるような記録になる。	①記録の書き方を再度、周知する。 ②ケアプランを各職員がしっかり把握する。 ③記録用紙の項目そって、本人の訴えや客観的状態を端的に記録する。 ④考察、評価はケアをして感じたことを書く。 ⑤ケアプランを評価する際は、考察、評価にもとずいて行う。 ⑥ケアマネやユニットリーダーがケアプランの評価を点検し、取り組みが機能しているかをモニタリングする。	1年間
2	19	利用者家族アンケートの中で、「利用者の要望が充分にくみとれていない・生活に満足していない・職員が笑顔で働いていない」と感じている家族の方がいた。認知症がすすんで表情が乏しくなったり、生活の範囲が限定されることもあるが、そうであっても尚その人らしい暮らしを実現できるよう工夫や努力をしていることが伝わっていないと考えられる。寝たきりの利用者にもアプローチして意欲を引き出そうとすることを強化するとともに、家族の力や情報を得る工夫をしながら、家族にもケアに参加してもらう必要がある。	認知症が重度の利用者へのアプローチを高める。家族も支援の対象であることを職員全員が認識できる。家族の立場を理解しながら、利用者の元気な頃の姿や思いを家族から聞き、共にケアを作り上げることが出来るようになる。	①遠方でなかなかお会いできない家族にはケアプランを送って、コメントを寄せてもらうようにする。 ②家族へのお便りを出す際に、担当が伝えてほしい事がらを毎月出す。 ③本人のQOLが高まるように取り組み、家族との関係も再生することを意識する。 ④家族が訪問した時に家族を笑顔で迎え、本人の最近の様子をその日に出ている職員が説明し、コミュニケーションをとる。その際、家族は喪失感や迷惑をかけているという意識をもっていることに配慮する。	1年間
6	5	権利擁護についてなど、わからない職員がいる。身体拘束についても今年度研修を行っていないので、定期的な研修が必要である。	身体拘束について職員全員が認識をもち、廃止を続けられるように工夫できる。権利擁護についても制度をしり、身近に困っている人がいれば相談につなげることができる。	①3月の職員会議で身体拘束や権利擁護について研修会をする。 ②虐待防止についても認知症高齢者虐待防止宣言を確認し、ケアを振り返るようにする。 ③1ヶ月の自分の目標を出し、自己評価、他者評価で自分を振り返り、良いところを伸ばす。	1年間

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。